

団体名：大川内地区コミュニティ協議会
活動地域：出水市

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できるところ

- ① 自然の恵みが豊かである。(米・水・空気・森林)
- ② 観光資源に恵まれている。(コスモス・あじさい)
- ③ 人が優しい。

(2) 地域活動の課題

- ① 移住者が少ない。(担い手不足)
- ② 空き家が多い。
- ③ 動物の農作物への被害が多い。

(3) 地域の強み

- ① コミュニティ協議会のネットワークや人のつながりがしっかりしている。

(4) 地域の資源

- ① 中心になってくれる人材がいる。
- ② コーディネーターや運営を支えている人々がいる。



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 移住者を増やすことや、空き家対策のために、移住者相談専用のホームページを作成する。
- ② 方法等
 - ・ 9月頃に、大川内地区コミュニティ協議会を中心に、市役所の担当部署や役員会と話し合う。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 移住者を増やすことや、空き家対策のために、移住者相談ページのコーナーの充実や改善を行う。
- ② 方法等
 - ・ 1月頃に、大川内地区コミュニティ協議会が中心となって、今住んでいる移住者と一緒に行う。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 役員会で話し合い、情報共有を図ることができた。
- ② 移住者相談のホームページ作りに取り組んだ。
- ③ 空き家バンク登録を市役所に相談した。

(2) 困っていること

- ① 新しい空き家の発掘ができない。
- ② 家主との調整がうまくいかない。
- ③ 住宅改造についての助成が少ない。



4 わたしたちの目標【次の一步】

- (1) 夏休み・冬休みを利用した体験移住を計画する。
- (2) 移住者の声を掲載し、ホームページを充実させる。
- (3) 家主の理解をもらいながら、まずは空き家を1軒さがす。



団体名：大尾区
活動地域：阿久根市

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できるところ

- ① いきいきサロン・ころぼん体操が盛んである。
- ② 災害に強い。
- ③ 大型の商業施設が近い。

(2) 地域活動の課題

- ① 子ども達の集まる場所がない。
- ② 公民館が古い。
- ③ 地域活動の参加者に偏りがある。

(3) 地域の強み

- ① 生活しやすい環境に恵まれている。
(買い物、病院、学校等)
- ② 子どもが多い。
- ③ 「赤瀬川」としてのまとまりが強い。

(4) 地域の資源

- ① 鶴翔高校の生徒が協力的である。
- ② 運営を支えてくれる人々がいる。



2 作成したアクションプラン【はじめてのステップ】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・異世代交流のために、地元の夕陽を眺めながら夕涼み会をする。
- ② 方法等
 - ・夏の終わりの8月末に、地域の老健施設の広場等にて、地元の有志とともに、音楽コンサートを開く。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・異世代交流のために、あかいご食堂(地域食堂)やクリスマス会をする。
- ② 方法等
 - ・12月に、農村環境改善センターにて、地元の有志、高校生ボランティアで、子ども食堂やレクリエーション、手作りプレゼントなどを行う。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 地域食堂の開催により、異世代間交流の機会ができた。
- ② コロナの影響で、取り組むことが変わっても、目的に沿った活動ができた。
- ③ コロナ禍でも、地域食堂などのできる活動があると実感できた。

(2) 困っていること

- ① コロナ禍で、福祉施設と一緒の活動が難しい。
- ② コロナ禍で、子ども達の参加が厳しい。
- ③ イベントを開催する場所の確保が困難である。



4 わたしたちの目標【次のステップ】

- (1) 異世代交流(児童・生徒・高齢者)を進める。
- (2) 子ども(小学生・中学生・高校生)とのコラボを企画する。
- (3) 子どもたちと一緒に、地域食堂を運営する。



団体名：上手ボランティアグループ 活動地域：薩摩川内市

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できるところ

- ① 沢山の集いがある。(ボランティアグループ)
- ② みんな隣近所を気にかけて助け合っている。
- ③ 高齢者の方々が大事にしている。

(2) 地域活動の課題

- ① 役員に高齢者が多く、引き受け手に困っている。
- ② 車の運転ができず、サロンに来られない方がいる。
- ③ 高齢者の方々は義理堅いので、かえって声をかけにくい。

(3) 地域の強み

- ① 自治会組織がしっかりしている。
- ② 活動的な組織が多い。
- ③ 多様な集まりがある。

(4) 地域の資源

- ① 野菜の栽培が盛んである。
- ② 牛の生産が盛んである。
- ③ 山菜などが豊富に採れる。



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

① 実施内容

世代間交流や若い世代に伝え残すために、郷土食「**ばあ飯(バー飯)**」を作る。

② 方法等

農閑期(11月中旬頃)に、上手ボランティアグループ有志で、祁答院保健センターにて、郷土食「**ばあ飯(バー飯)**」を自分たちで作り、試食する。その際、上手小学校へ声かけをして、親子ペアの参加を募る。

※「**ばあ飯(バー飯)**」とは、田植えや稲刈り後の慰労として、また、お正月の餅つきをした後などいろいろな人からお手伝いをもらった時に食べている「山菜おこわ」のこと。

この「山菜おこわ」のことを、薩摩川内市祁答院地域では「**ばあ飯(バー飯)**」と呼んでおり、その呼び名の由来は不明である。



3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 郷土食「**ばあ飯(バー飯)**」のレシピの動画が作成できた。
- ② 郷土のもち米(溝下糯)を活用している。
- ③ ボランティアグループの協力があり、活躍の場になっている。

(2) 困っていること

- ① コロナの影響で、イベントが無くなり、郷土食「**ばあ飯(バー飯)**」に触れる機会が減少している。
- ② コロナの影響で、小学校と予定の調整ができない。
- ③ 若い世代の方が、郷土食「**ばあ飯(バー飯)**」を作れない。



4 わたしたちの目標【次の一步】

- (1) 小学校に動画を持ち込み、郷土食「**ばあ飯(バー飯)**」のプレゼンテーションをする。
- (2) 作った郷土食「**ばあ飯(バー飯)**」を、子ども会の行事に持ち込み、関心を持ってもらうきっかけにする。
- (3) 中学生や高校生をボランティアに巻き込み、今あるボランティアグループの必要性を若い世代に伝えていく。



団体名：コスモスサロン
活動地域：長島町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できるところ

- ① 長崎鼻灯台からの夕陽がきれい。
- ② 蘇鉄会のボランティア活動が盛んである。
- ③ 高齢者の見守りを頑張っている。

(2) 地域活動の課題

- ① 子どもたちや子育て世代との交流の場が無い。
- ② 地域で女性が発言しにくい。
- ③ サロンの後継者不足に困っている。

(3) 地域の強み

- ① 地域のボランティア精神が強い。
(皆で墓掃除、灯台の草刈り等々)

(4) 地域の資源

- ① 海の近くは海藻類が豊富である。
- ② ジャガイモ畑に恵まれている。
- ③ 小中学生が多い。



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1~2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 子どもたちや子育て世代との交流のために、育成会の子どもたちと一緒に、ラジオ体操をする。
- ② 方法等
 - ・ 夏休みに、公民館広場にて行う。育成会の子ども・保護者・ラジオ体操の仲間たちが、早めに育成会長に声をかける。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 地域の親睦を深めるために、竹ぼうき作りをする。
- ② 方法等
 - ・ 年末に、公民館にて、地域みんなで、ぼうき作りの師匠に作り方を教えてもらいながら、自分たちで竹ぼうきを作る。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① コロナ禍ではあったが、育成会の役員の協力もあって、ラジオ体操も竹ぼうき作りも実施することができ、子どもたちも思ったより参加してくれた。
- ② 計画から実行までの話し合いが上手くいって、ぼうき作りでは親子の絆を深められた。
- ③ ぼうき作りの師匠の教えが分かりやすく、親身になって教えてもらった。

(2) 困っていること

- ① ラジオ体操はコロナの急速な広がり、後半はサロンの仲間だけになった。
- ② ぼうき作りを頑張ったけれど、初めての経験で最後まで完成できなかった。



4 わたしたちの目標【次の一步】

- (1) 正月に向けて、しめ縄作りをする。(令和6年に向けて検討)
- (2) 子ども食堂を開く。
(1月中旬、集落の子どもたち全員を対象に、材料を持ち寄って行う。会費は無料とする。)



団体名：神子区民生委員
活動地域：さつま町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できるところ

- ① 地域での見守りがある。
- ② 地域活動が活発である。
- ③ 地区の絆が強く、助け合いがある。

(2) 地域活動の課題

- ① 移動手段の確保が困難である。
- ② 後継者育成が困難である。
- ③ 空き家対策・支援方法が見つからない。

(3) 地域の強み

- ① 地域みんなが協力的である
- ② 自主的に活動する人材が多い。
- ③ 伝統行事が続いている。

(4) 地域の資源

- ① 観光資源がある。(ホテル・ダム等々)
- ② 自然が豊かである。(鹿・猪等々)



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 地域ニーズを知るために、支え合いマップ作りをする。
- ② 方法等
 - ・ 8月中旬～9月中旬に、神子区公民館で行う。
 - ・ 地域住民・社協・役場が、放送や文書で関係者に周知する。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 現在の地域での取り組みを沢山のの人に知ってもらうために、「若手に現在の取り組みを知らせる会」を開く。
- ② 方法等
 - ・ 各公民館ごとに実施する。
 - ・ 7月9日から広報をスタートする。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 8月上旬に、区の福祉部会を開催することができた。
- ② サロンが見守りの場になっている。
- ③ **安心カプセル**の取り組みが増えた。



※ **安心カプセル**の取り組みとは、普段服用されている薬やかかりつけ医、緊急の連絡先などを記入した緊急連絡票を、プラスチックの容器等に入れ冷蔵庫に保管し、緊急時の対応に役立てる取り組みのこと。

(2) 困っていること

- ① コロナの影響で、マップ作りが実施できない。
- ② サロンは女性の参加がほとんど。男性の参加もあった方がよい。
- ③ 地域で考え方も違って、取り組みに地域差がある。



4 わたしたちの目標【次の一步】

- (1) 民生委員で集まって、福祉部委員会を作る。
- (2) 福祉部委員会で素案を作って、支え合いマップを作る。
- (3) ドラゴンボートの写真・記念の物を展示して、伝承することで、世代間交流をする。



団体名：東区自治会 活動地域：徳之島町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 自治会と地域住民が一体となって活動している。
- ② 銀行・病院・スーパー・東区公民館が地域に存在する。
- ③ 高齢者の見守り・声かけ・サロン活動が活発。

(2) 地域活動の課題

- ① 後継者育成。
- ② 災害時の要援護者の避難誘導。
- ③ 隣近所の付き合いが希薄。

(3) 地域の強み

- ① リーダーひとりに頼らず協力できる方がいる。
- ② 地域の絆が深い。
- ③ 基盤づくりしてくれた自治会の力が大きく
今もそれを引き継いで活動している。



(4) 地域の資源

- ① 公民館及び広場の行事使用・駐車場が広い。
- ② 阿久泉（湧き水）

2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 若手仲間（ボランティア）の発掘作戦を実施する。
- ② 方法等
 - ・ 後継者育成のため、8月頃、民生委員を中心に、東区地区で「支え愛高齢者ボランティア」をする人をさがす。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 災害時の避難訓練を実施する。
- ② 方法等
 - ・ 要援護者・一人暮らし高齢者等の把握のため、11月頃に、自治会長が中心となって、東区区民が行政と連携して実施する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 支え愛ボランティアをする人が、9月に10人、10月に4人増えた。
- ② 担い手が少しずつ増加している。
- ③ 会員同士の交流を活発にするためにグラウンドゴルフやサロンをやっている。
- ④ 東区グラウンドゴルフ大会（月4回）でも声かけをしている。
- ⑤ 普段の活動の中で担い手になる人がいないか声をかけている。
- ⑥ 子ども食堂のボランティアに行き声をかけている。

(2) 困っていること

- ① 参加者もボランティアもみんな高齢化してきて送迎が必要になってきた。
- ② コロナの状況がなかなか収束しない。
- ③ 東区以外の人も入ってきて、東区同士の交流会ではなくなりつつあるが、それもいいのではと考えている。



4 わたしたちの目標【次の一步】

津波を想定しての災害訓練

(1) 実施日：1月～2月頃

(2) 参加者：地区住民、町役場、消防、町社協など

(3) 内 容：防災無線で地区住民に呼びかける

事前に町社協で要援護者・一人暮らし高齢者の

避難台帳整備の手伝いをする

避難訓練・炊き出し訓練・消火器訓練・DVD上映



団体名：GGクラブ 活動地域：天城町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 昔から歌や踊りに親しんでおり、現在も民謡保存会にて月2回メンバーが集まって楽しんでいる。
- ② 自然豊かでそれを活かした公園も整備され、美化活動も盛んに行っている。
- ③ 助け合い・互助の気持ちを持っていて、ボランティア活動や近所とのコミュニケーションなどもうまくいっている。

(2) 地域活動の課題

- ① 意識改革！
- ② 若い世代も含めた話し合いの場を作る。

(3) 地域の強み

- ① 交通(空港・港)の便が良い！
- ② 人材(昔の伝承)がいる！
- ③ 他人事と思わない！やさしい人が多い！

(4) 地域の資源

- ① 徳之島ダム
- ② 闘牛場がある
- ③ 線刻画などの遺跡
- ④ あがりまたいじゅん(島内随一の美しい湧き水)
- ⑤ ウンピキ(日本最大級で神秘的な海底鍾乳洞)



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・親子ふれあいグラウンドゴルフ大会実施の話し合いをする。
- ② 方法等
 - ・大会に向けての協議のため、9月初旬に、GGクラブ+学校+育成会+長寿会(老人クラブ)が、前野公民館(北部地区)で話し合いを行う。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・親子ふれあいグラウンドゴルフ大会を実施する。
- ② 方法等
 - ・若い世代との交流と地域活動への取り組みのため、11月中に、GGクラブ+関係団体が、B&Gグラウンドでグラウンドゴルフの交流ゲームを実施する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① グラウンドゴルフ交流会(11月13日 9:00～11:00 岡前小・校庭)を実施した。
- ② 天城町社会福祉協議会で関係者が協議し、大会目的・開催日時・場所・参加募集・運営方法・準備するものなどの「実施要領」を作成した。
- ③ 計画段階で役割も決められたのでスムーズに実施できた。
- ④ 学校や子ども育成会と連携が取れて良かった。
- ⑤ 広報チラシを作成した。
- ⑥ 参加したみんなが楽しくできた。

(2) 困っていること

- ① 活動の日時や内容の周知方法(特に一般の方へ)
- ② 日程調整、スポーツ少年団の大会等の関係
- ③ ふれあい、顔合わせの時間設定



校区ふれあいグラウンドゴルフ交流会

子どもたちが地域で安心・安全に過ごせるお手伝いができればと、高齢者を主とした地域の方々とグラウンドゴルフを通じた交流会を企画しました！

お互いが顔見知り慣れることで、登下校時や帰宅後の地域での活動を見守っていただいたり、声かけによる挨拶運動の取組みにも繋がります。

初心者や子どものみでの参加も大歓迎です。多くの参加をお待ちしております。

日時：令和4年11月13日(日)
9:00～受付 9:20～開始(2時間程度)
※荒天時の中止お知らせは、AYT音声告知放送します。

場所：岡前小学校 校庭

参加対象者：

- ・岡前小学校及び名間分校の児童及び、北中学校の生徒、保護者(※但し、児童のみの参加は4年生以上とします)
- ・校区のシニア世代(高齢者クラブ、長寿会等)及び、地域住民

申込み方法

Googleフォームにて11/4(金)まで！
～お問い合わせ・申込先～
天城町社会福祉協議会(峰岡)
Tel 85-5093 Fax 85-3710

4 わたしたちの目標【次の一步】

(1) 取り組めていない地区(南部)での実施

- ① 実施する地域学校へ協力依頼や周知
- ② 来年は南部地区での交流のGGゴルフについて学校へ直接出向き話をしていきたい。
- ③ 南部推進会議の皆さんとGGゴルフ連盟の皆さんに声をかけていきたい。

(2) 地域の人材の発掘に協力する

求められている人材を知り、メンバーが居住する(把握できる範囲)地域の人々に声掛けを行い、知り得た情報を関係機関へ提供することで協力をしていきたい。



団体名：西伊仙・西サロン
活動地域：伊仙町

1 地域の課題解決ワークショップ

- (1) 地域の自慢できること
 - ① 子育てしやすい環境がある。
 - ② 人間性が大らかである。
 - ③ 島内唯一の健康増進施設‘ほーらい館’がある。
- (2) 地域活動の課題
 - ① 参加者が少なく、参加するメンバーがいつも同じ顔ぶれである。
 - ② 年齢層が高くなっているため、後継者(若手高齢者)の育成が必要。
 - ③ 地域活動と行政・社協との連携をさらに強化する必要がある。
- (3) 地域の強み
 - ① ボランティア活動を継続している。
 - ② 高齢者スポーツが盛んである。
- (4) 地域の資源
 - ① Mさん(健康増進施設“ほーらい館”の利用により、健康寿命を延ばしている。)
 - ② Kさん(90歳にしてサロンのリーダー。グラウンドゴルフに貢献している。)



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 自主サロンの活動内容を伊仙町全域へ紹介する。
- ② 方法等
 - ・ 参加者を増やすため、行政・社協と協力し、広報いせん9月号または10月号に、活動の様子を掲載し、配布する。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 高齢者と子どもたちの交流のため、伝承あそび大会を実施する。
- ② 方法等
 - ・ 冬休み(1月)に、西伊仙児童館で老人クラブ・学童の子どもたち・民生委員・サロンメンバー・支援員が、高齢者に島口を教えもらいながら伝承あそび大会を行う。

3 アクションプランの実施状況

- (1) 上手くいっていること
 - ① 自主サロンの活動内容を広報誌に掲載することが確定した。(紙面の都合上1月号)
 - ② 学童クラブの子どもたちとの伝承遊び大会を実施できた。(令和4年11月21日)
 - ③ 来年度幼稚園児と高齢者との交流(伝承あそび)をする予定(令和5年度)
 - ④ 伝承あそびに使う玩具が増えた。次回の伝承遊びやサロン活動でも活用できる。
 - ⑤ (高齢)参加者自身が、童心に戻って懐かしい遊びに熱中していた。

(2) 困っていること

- ① コロナが収束しない。
- ② イベントを応援、協力してくれるスタッフが少なかった。
- ③ 地域の方全員に参加してもらえたら良かった。
- ④ 伝承遊びの時間(1時間)がもう少し長くできれば良かった。



4 わたしたちの目標【次の一步】

- (1) 地域内の幼稚園児との交流
 - 伝承あそび・島口の伝承(令和5年度11月に実施予定)
- (2) 活動の紹介をして、参加者募集
 - サロン、民生委員、老人クラブなどへ周知広報
- (3) 学校、幼稚園、保育園との交流に向けて、まずは、学校などの現場に足を運んで、交流活動についての話をしながら、顔の見える関係づくりを進める。
- (4) 様々な年代が交流できる場や機会を設ける。
- (5) サロン参加者の男性に、伝承遊びで使用する竹細工などを作ってもらう。
- (6) 後継者の育成



団体名：根折字 活動地域：和泊町

1 地域の課題解決ワークショップ

- (1) 地域の自慢できるところ
 - ① 勤勉、働き者が多い。
 - ② 団結力がある、協力的。
 - ③ 明朗闊達な人ばかり。
- (2) 地域活動の課題

各団体長が集まる場を持っておらず、意見交換ができていない。

※ 伝統舞踊の保存継承、方言の保存継承。
- (3) 地域の強み
 - ① 研修センター・グラウンドゴルフ場が集落内にある。(健康づくり・交流の場)
 - ② 伝統芸能がある。(根折あぶしぐい他)
 - ③ 音楽協会がある。(太鼓、琉球芸術)
- (4) 地域の資源
 - ① 半崎(軍艦岩)観光資源
 - ② 高倉(文化資源)
 - ③ 海が近い(海遊び)
 - ④ Tさん(元教員)
 - ⑤ 頼れる長寿会長がいる。
 - ⑥ Sさん(発言力・統率力があるリーダー)



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 伝統舞踊(高山)の若い世代への継承
- ② 方法等
 - ・ 8月～9月に、文化推進員が、字公民館で、踊れるメンバー(5名)に依頼して青壮年団・育成会・婦人会に指導する。頻度は月1回とし、声かけは各種団体長に依頼する。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 伝統舞踊(高山)の舞台発表の実施
- ② 方法等
 - ・ 若い世代へ継承するため、9月の字敬老会で、青壮年・育成会・婦人会が衣装を身に付けて踊る。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 10月に根折字伝統舞踊伝承会立上げを行った。
- ② 11月第3土曜日に第一回練習実施
(青年・壮年が声かけて集まり、練習日を決めた)
- ③ 衣装の予算(沖縄から取りよせ)に町の助成を活用。
- ④ SSTV(地域のケーブルテレビ)にビデオをもらった。
- ⑤ 長寿会の全体交流会(12月2日)で披露した。

(2) 困っていること

- ① 若い世代への継承(会員が興味なさそう→育成会)
- ② 縦のつながりがうまくいっていない(青年・壮年・長寿間)
- ③ 青年・壮年に継承が必要?



4 わたしたちの目標【次の一步】

(1) 活動を広げるための目標

- ・ 集落内の4つの組ごとに出し物を考えてもらう。

(2) 取り組みをより良くするための目標

- ・ 縦・横のつながり(コミュニケーション)を深める。
(例: 組ごとのLINEグループを作る)



団体名：和泊字 活動地域：和泊町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できるところ

- ① 設備が充実している。
- ② 団結力が強い。
- ③ リーダーがいる。

(2) 地域活動の課題

- ① 各団体のメンバーの減少。
- ② 各団体相互の関係性がない点。
- ③ 自主的に各団体に入ろうとする人が多くない点。

(3) 地域の強み

- ① 多種多様な人がいる。
- ② 情報が入るのが早い。
- ③ 横のつながりがある。
- ④ 結の心。
- ⑤ 転入者や移住者も受け入れる。

(4) 地域の資源

- ① 生活に欠かせないものが何でも近場にある。
(図書館・役場・ヤーシチ公園・病院・金融関係・社協・たらそ・郵便局・JA・港・携帯会社)
- ② 自然の恵み(海も山も)がある。
※つわぶき・アオサ・シークワサー
- ③ 人が多い。



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 団体(世代間)交流に向けた土台づくりのための自由研究・交流会を実施する。
- ② 方法等
 - ・ 8月から9月に長寿会が、ヤーシチ公園にて、ラジオ体操の後に行う。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 団体(世代間)交流として、和泊字大忘年会を実施する。
- ② 方法等
 - ・ 12月中旬に、やすらぎ館にて、長寿会主催で、婦人会・壮年団・育成会・青年団に参加を呼びかけて行う。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 子ども会の方から、方言カルタ大会をしませんかという誘いがあった。コロナの影響で実施は難しかったが、声かけがあったということが嬉しかった。以前より、交流が一步進んだと感じた。
- ② 長寿会主催で12/4に忘年会を行い、婦人会・壮年団・育成会・青年団等からの参加もあった。
青年団等の方にふくわらい等出し物をしてもらった。
コロナ禍で様々な方との交流は難しかったが、できる限りの交流ができた。
- ③ 壮年団・育成会・青年団主催のグラウンド・ゴルフに参加した。

(2) 困っていること

- ① 地域のさまざまな御家族を呼んで、世代間交流(長寿会+家族で3世代)をしたり子どもたちの自由研究を手伝ったりしたかったが、コロナの影響により開催が難しかった。
- ② 夏頃は特に子どもたちの間で流行が拡大していたので実施に踏み切ることができなかった。



4 わたしたちの目標【次の一步】

- ・ 新年会を開催できなかったのが、今後、子どもたちと一緒に方言をつかったゲームをしたい。
- ・ 方言で物の名前を書いた紙を準備し、その紙を見て子どもが書かれた物を持ってくるゲームを実施したい。
- ・ 文字が読めないと難しいので、小学5～6年生以上が対象となるだろう。子どもとコミュニケーションを取りながら会話もできればと考えている。
- ・ 日程は子どもが参加できる土・日で実施したい。



団体名：喜美留字 活動地域：和泊町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 喜和会(高齢者の見守りグループ)・寿会
- ② 笠石海浜公園
- ③ 合同年の祝い

(2) 地域活動の課題

- ① 寿会への参加・加入者が少ない。
- ② AEDの設置。
- ③ イベントに関わる人が限られる。

(3) 地域の強み

- ① イベントをきっかけにキズナができたこと。
(年齢の幅が広いから、役割分担が自然にできる)
- ② みんなの想いを形にできるパワーがある。
- ③ 声をかけたらすぐ動いてくれる協力者(オペレーター・物品提供者)がいる。
- ④ みんな笑顔、気持ちは一つ。

(4) 地域の資源

- ① Kさん(女性リーダー)
- ② 喜美留くらごう
- ③ Iさん(会のまとめ役、サプリーダー)
- ④ マハダグムイ(沖永良部伝統の追込み漁)
- ⑤ 百合球根



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1~2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 歴史を高齢者に伝えてもらうことで子どもたちが地域の良さを知る機会を作るため、くらごう祭り(くらごう探検)を実施する。
- ② 方法等
 - ・ 8月に、育成会・青年団・喜和会・寿会が、公民館・くらごうで、くらごうの歴史・役割を「うやほ」に聞いたりする。

※「うやほ」とは「年長者」のこと。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 子どもたちに島の言葉を知ってもらい方言の継承につなげるため、方言あそびを実施する。
- ② 方法等
 - ・ クリスマスに、公民館で育成会・喜和会・寿会が、単語を方言で作って、みんなで文章をつくるあそびを行う。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 各団体での活動はできている。
- ② 寿会の交流会はできている。
- ③ 喜和会の活動ができていることが情報交換できている。
- ④ 人と人とのつながりが強くなった。
- ⑤ 集まる場所において情報がみんな共有できる。



(2) 困っていること

- ① くらごう祭りがコロナの影響で開催できなかった。
- ② コロナの影響で育成会との交流ができている。
- ③ 地域での交流ができなかった。
- ④ まとまって活動ができない。

※「くらごう(暗川)」とは

くらごう(暗川)とは、地下を流れる川のこと。沖永良部はさんご礁の島で河川に乏しく、昔の人々はここを唯一の飲料水汲場、洗濯場として利用していた。水道の普及により、現在では全家庭に潤沢に給水されている。

4 わたしたちの目標【次の一步】

(1) くらごうの歴史を知る。

- ① 紙芝居をつくり、みんなが喜美留を好きになるようにする。
- ② 地域の人たち(寿会など)から話を聞く場を作る。
(地域の学芸員など歴史に詳しい地域の人と一緒にやる。)

(2) 方言の継承

- ① 分かりやすい方言から取り上げて覚えてもらう。
- ② おもしろい方言のアクセントや歌で覚えてもらう。
- ③ 方言を知るため、年配の人の家を訪問する。



団体名：池園町内会 活動地域：鹿屋市

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 花いっぱい緑豊かで、他地域からも訪れるなど見晴らしの良い散歩コースがある。
- ② 特技を持つ、経験豊かな高齢者が多い。
- ③ 協力的で、人柄の良い方が多い。

(2) 地域活動の課題

- ① 町内会からの脱会者、若者の町内会離れがある。
- ② 移動の手段がない。(バス1日2往復)
- ③ 地域住民の親睦を図る機会が少ない。

(3) 地域の強み

- ① 町内会の役員と地域住民が親しみを持って交流できる。
- ② 役員に熱意と夢があり、共有している。
- ③ 住民が呼びかけに集まってくれる。

(4) 地域の資源

- ① 地域住民が楽しんで活動できる場所、環境がある。
- ② 町内で活動に必要なトラクターなどの機械や物品が調達できる。
- ③ 公民館、神社などがきれいである。



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1~2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 地域住民の親睦を図るために、三世代で公民館前の田んぼの稲刈りを行う。
- ② 方法等
 - ・ 令和4年10月10日と19日に、子どもから高齢者まで参加して、手刈りと、地域住民の所有するコンバインによる稲刈り体験をもらう。地域住民や児童養護施設に配るため、10日にもち米1反と、19日に普通米1反で、計2反の収穫を目指す。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 子どもから高齢者まで気軽に集えるスポットにするため、公民館の活性化を図る。
- ② 方法等
 - ・ 地域住民全員で、年末から年始にかけて、池園町公民館の広場に花を植えたり、家で眠っている本を集めて公民館文庫を作ったり、高齢者を講師に招いて町内会でそば打ち体験を行ったりする。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 稲刈りが計画通りにできた。
 - ・ 町内に農協でん粉工場がある関係で、稲作の指導を受けることができた。
 - ・ 予想より参加者が多く、子育て世代も含めて、保育園に行っていない幼児も喜んで走り回っていた。(幼児から高齢者まで40人余り参加)
 - ・ 呼びかけの際には、「稲刈りしなくても見るだけでも！」と伝えるなどの工夫をした。
 - ・ 住民それぞれが出来ることをした。
 - ・ 収穫した米は、全世帯(95世帯)に3kgずつ配ることができた。
- ② 公民館前に作った花壇の草取りを、住民が協力してくれる。
- ③ 12月11日に、町内の高齢者を講師に招いてそば打ち体験を実施し、45人の参加があった。
- ④ 公民館文庫の開設に向け、書棚を整備した。



(2) 困っていること

- ① 準備段階での田んぼの草取りなどは、もう少し人手が欲しかった。
- ② グループ活動の一環として活動しており、町内会費は使わないこととしていることから、活動資金が必要である。

4 わたしたちの目標【次の一步】

- (1) 公民館文庫の古本等を住民から集める。
- (2) 公民館を地域の人たちの拠点にする。(居場所にする。)
- (3) 高齢者サロンを立ち上げる。茶菓子代など資金面の支援も検討する。
- (4) 公民館の災害時の避難所としての活用を目指す。



団体名：白崎デイサークル 活動地域：鹿屋市

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できるところ

- ① 公民館が白崎町の中心にあり、立地がよい。
- ② 学校(県立鹿屋高校)があるから活気がある。
- ③ 人口が減っていない。

(2) 地域活動の課題

- ① 次世代の人が地域活動に興味がない。
- ② サロン活動の必要性を知ってもらう。
- ③ 男性の参加が少ない。



(3) 地域の強み

- ① 他の地域からもサロンの参加者を受け入れている。
- ② 高齢者サロンを基盤に様々な活動がある。(卓球の会・裁縫のひまわり会)
- ③ リーダーシップを持っている人がいる。
- ④ 認知症の人への理解・サポートがある。

(4) 地域の資源

- ① 市役所、病院、公民館が近い。
- ② 様々な活動ができるサロンがある。
- ③ 介護事業所と連携した脳トレ等の介護予防講座の実施。

2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 町内の人々にサークル活動を知ってもらい、参加してもらうために、広報活動としてチラシ配布を行う。
- ② 方法等
 - ・ 8月末までに、町内会長や代表者がチラシを作成し、回覧する。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 参加者の増加を図るために、カラオケ大会を開催する。
- ② 方法等
 - ・ 月1回程度、カラオケ好きの人が白崎公民館に集まり、ロコミや町内会放送等の広報活動を行いながら実施する。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 高齢者の集まる所は公民館！を合言葉にチラシを作成し、公民館に貼ったり、回覧した。町内会会員のお孫さんがチラシの作成に協力した。
- ② 曜日ごとに活動を実施した。(火曜日)デイサークル(木曜日)ひまわり会(土曜日)マーじゃん、囲碁、将棋等。
- ③ 新しいサロンの立ち上げを行った。
- ④ 公民館を使った行事が増えた。
- ⑤ 新しい参加者が増えた。
- ⑥ 公民館で希望者により忘年会を実施した。



《作成したチラシ》

(2) 困っていること

- ① 簡単な針仕事程度で、困っている人を助けたいと始めたが、次第に手芸など趣味の参加者も増えたため、グループを分ける検討をしている。
- ② 市外からの参加者も受け入れているが、会員登録しても補助金の対象にはならないので、運営資金も必要だが、来るものは拒まず！で、今はこのまま受け入れたい。



4 わたしたちの目標【次の一步】

- (1) 火曜日のデイサークルの参加者を増やす。
(来て欲しい人が来ていない)
- (2) ほころび直しやボタン付けなどを行う白崎ひまわり会の充実。
- (3) 参加者を増やすためにサークル内容の説明をしたり、望まれる内容を聞き出したりするなど、継続的に根気強く声掛け訪問を行う。
- (4) 高齢者を対象にどのような活動をしたいかアンケートをとり、新しいメニューを見つける。



団体名：サロン花みずき
活動地域：垂水市

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できるところ

- ① 桜島の眺めがよい。(海と桜島)
- ② 高齢者が元気。(70歳過ぎても畑仕事)
- ③ 温泉がある。(家でも温泉に入れる)

(2) 地域活動の課題

- ① 活動プランを考えるのが大変。
- ② 後継者、支える人の育成。
- ③ 活動をしない人にどうやって参加してもらうか。

(3) 地域の強み

- ① リーダーを支える協力体制、役割分担が出来ている。
- ② 自治公民館を利用できる。(集まれる場所がある)

(4) 地域の資源

- ① リーダーシップのあるサロンの代表。
- ② 活動を応援してくれる地元出身者。
- ③ 市のボランティアポイント。



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・参加者の増加と地域の交流を図るために野菜作りを行う。
- ② 方法等
 - ・9月頃に自治公民館近くの休耕地を利用して野菜作りを行う。花みずきのメンバーが中心となって近所に声をかけて、指導と手伝いの協力をもらいながら野菜を育て、収穫した野菜を料理する。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・支える人の育成と、参加者の更なる増加を図るために、鍋パーティーを行う。
- ② 方法等
 - ・1月頃に花みずきを中心に、自治公民館で収穫した野菜や、各自で持ち寄った食材を使って、鍋パーティーをする。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 快く土地を借りることができた。
- ② 男性の協力がもたらえた。
- ③
 - ・9/22に種撒きできた。(大根、赤かぶ、玉葱、人参、高菜など)
 - ・9/26芽が出た。
 - ・10/18大根の間引き。
 - ・10/24サロンで大根を使って豚汁を作った。

(2) 困っていること

サロンの情報を共有する時間がなかなか取れなかった。



4 わたしたちの目標【次の一步】

- (1) 活動資金を集める。
(年に4回、75歳以上の独居高齢者にカレーを作って届けるため)
- (2) 12/14 バザーを開催。・・・野菜を出品する。
- (3) カレー作りを続けられるように、来年はじゃがいもも植えて活用して、野菜作りを継続する。
- (4) バザーの回数を増やす。
- (5) 野菜作りに向けて協力をもらう。
- (6) 活用できる資金などあれば、すぐに情報共有する。
- (7) 気軽に相談に乗れる環境をつくる。
- (8) みんなで支え合い、住んで良かったと思える地区にしていきたい。



団体名：新川西わかば会
活動地域：東串良町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できる所

- ① 仲がよい。
- ② 協力的
- ③ 参加した活動には全力で取り組むベテラン

(2) 地域活動の課題

- ① 情報交換の場が少ない。
- ② 新しい会員の獲得
- ③ リーダーになる人が少ない。

(3) 地域の強み

- ① 活動に協力的(奉仕作業、研修、運動会
ころばん体操、お手玉作り)
- ② みんなよくしゃべり、楽しく参加している。
- ③ ベテランのリーダーがいる。
- ④ 結束力がある。

(4) 地域の資源

- ① 地域の自主活動
- ② 地域の人がみんな顔見知り。
- ③ 元気な高齢者がいる。



2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1～2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・健康維持のために、新川西わかば会の会員と興味のある方で勉強会を行う。
- ② 方法等
 - ・10月初旬(月曜日)に、新川西下の公民館で、町の保健師や看護師さんの協力をもらって、勉強会を行う。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・リーダーの負担を減らすために、後継者となる補佐役(サポート役)を見つける。
- ② 方法等
 - ・2月に、わかば会の会員が新川西の公民館で、ころばん体操の後に、リーダーの補佐役について話し合いを行う。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 毎週月曜日の午後、体温や血圧測定の後、童謡に合わせ歌いながら、腕や足首に重りを巻いて体操し、鹿屋体育大学の先生の指導ももらった。
- ② 町の保健師や看護師を講師に招いて「带状疱疹について」「誤嚥防止について」などの健康教室を開いたり、生活支援コーディネーターによる「地域活動の必要性」の講話を聴いたりした。
- ③ 教室の後には、茶話会をして世間話をしながら、いろんな情報を交換している。年末を前にみんなで公民館に集まり、大掃除を行った。
- ④ 教室に来ていない人の家を会員が訪ねることで、互いの見守りにもなっている。
- ⑤ 新川西の他の集落の人達と一緒に、高齢者の支え合いマップ作りを行った。

(2) 困っていること

- ① コロナ禍になって、わかば会、子ども会、町内会の総会、普段の公民館の清掃作業なども出来なくなり、集まる機会がほとんどない。
- ② 伝統行事の祭りや、棒踊り、運動会なども中止のまま、地域全体の交流がない。



4 わたしたちの目標【次の一步】

例年実施している町内の定期総会の代わりとして、令和5年2月(月曜日)のわかば会で、ころばん体操を行った際に総会資料を配布するとともに、弁当を準備したり、日用品を配布したりして、みんなで楽しく過ごす。



団体名：塩入老人クラブ
活動地域：南大隅町

1 地域の課題解決ワークショップ

(1) 地域の自慢できること

- ① 景色がよい。(海、滝、観光)
- ② 食べ物がおいしい。(新鮮な魚、果物)
- ③ 人がやさしい。(穏やか)

(2) 地域活動の課題

- ① 呼びかけても人が集まらない。
- ② 移動手段が少ない。
- ③ 大きいコミュニティが少ない(移住者などのつながり)



(3) 地域の強み

- ① 人と人とのつながりが強い。(助け合い、イベントが多い)
- ② 人は少ないが、県立南大隅高校がある。(県外から若い人が移住してくる)
- ③ 農地が多い。(自家野菜の栽培)

(4) 地域の資源

- ① 多くのボランティア、サロン、ころばん体操の代表者など。(特に高齢者)
- ② 自由に使える公民館がある。
- ③ 高校生がいる。

2 作成したアクションプラン【はじめの一步】

(1) 1~2ヶ月後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 買い物難民を減らすために、買い物代行を行う。
- ② 方法等
 - ・ 8月中旬頃から毎週火曜日・金曜日に地域のボランティアや社協の人の協力を得て、公民館や自宅など指定した場所で買い物代行を行う。チラシや自治会の放送により広報し、買い物の希望などは電話で対応する。

(2) 半年後の取り組み

- ① 実施内容
 - ・ 若者や移住者との交流を図るため、グラウンド・ゴルフ大会を行う。
- ② 方法等
 - ・ 3月初めの日曜日に、全町民(主に若者ボランティア、グラウンド・ゴルフ会員)を対象に岬ドームで実施する。若者にSNSやチラシを作成してもらい、町の放送や、近所の声掛け活動を通して呼びかける。

3 アクションプランの実施状況

(1) 上手くいっていること

- ① 体操教室や栄養教室を開催できた。
- ② 老人クラブ会を実施した。
- ③ ビンゴゲームを行った。
- ④ 新しい人が加入した。



(2) 困っていること

- ① 会員が少ない。(若い人が入ってくれない)
- ② 独居高齢者が多い。
- ③ コロナで人と会わないし、会いたがらない。



4 わたしたちの目標【次の一步】

- (1) 塩入老人クラブの会員数を増やすため、12月に忘年会を実施したい。
- (2) そのために見やすく、魅力的に見えるようなチラシを作り、配布して周知したい。
- (3) ロコモや、グラウンド・ゴルフ大会などでも呼びかけ、若い人や、男性の準会員の参加を促したい。

